

令和4年度 校内課題研究発表会

[1・2年探究科学科(人文社会科学科・理数科学科)、2年普通科]

令和5年1月26日(木)、2年人文社会科学科・理数科学科の校内課題研究発表会を、富山県高岡文化ホールの多目的小ホール・第1展示ホール・第2展示ホールの三会場に分かれて実施しました。

2年探究科学科の生徒は、昨年4月から約10か月にわたって行ってきた課題研究の最後の発表会ということで、どの班も、伝えたいという思いのこもった発表をしていました。観覧した2年普通科や1年探究科学科の生徒も、疑問点などを積極的に質問していました。また今回は、2年探究科学科生徒の保護者にも観覧していただき、これまでの成果を披露することができました。

ポスターセッションの後、1・2年探究科学科生徒が参加して、全体会が行われました。

最初に、これまでご指導くださった大学の先生から講評をいただきました。「長期間にわたる研究は、点数では測りきれない、その過程そのものが貴重な体験であり、今後の生活や研究には非活かしてほしい」とのことばをいただきました。

次に、1年代表生徒が、来年度に向けての抱負を述べました。

続いて、2年代表生徒が、「課題研究は普段の勉強とは異なる大変さがあったが、互いに磨きあい高めあう貴重な体験になったこと、そしてさらに、この体験や恵まれた環境を活かし、現在の自分を超越する体験を貪欲に行っていこう」と檄をとばしました。

最後に串田校長先生からは、「これまでの学びがよく現れていた発表会であった。上手くいったところいかなかったところをしっかりと振り返り、常に新しいことに直面し柔軟に対応していかなければならない今後の社会に活かしてほしい」という激励のことばをいただき、閉会となりました。

《生徒の感想》

- ・興味があることを研究するのは楽しいと思うが、一年間研究し続けられるようなテーマを見つけるには知識が必要だと実感した。普段から意識していきたい。(1年)
- ・質疑応答の時の大学の先生方の意見は的確だと思った。考察に穴があることに気付かせてくれ、仮説→検証→考察の流れの中で大切にすべきことが明確になった。(1年)
- ・発表をする度に先生や生徒から疑問点や改善点を指摘され、その都度改善をしていくが、そうしても完璧にはならないという点で、課題研究は貴重なものだと思った。(1年)
- ・質問され指摘され納得してしまうなど理解に未熟なところもあったが、自分たちで研究過程や実験方法を考えて、新しいことに挑戦できて楽しかった。(2年)
- ・課題研究はとにかく辛かった。何度もダメだと思った。チームとしても研究としてもまとめる



英語2班の発表の様子
〈多目的小ホール(1階)〉



国語1・2班の発表の様子
〈第1展示ホール(2階)〉



生物班の発表の様子
〈第2展示ホール(3階)〉



閉会式後、大学の先生からさらなるアドバイスを受ける生徒たち

ことができなかつたと思う。しかしこの経験から得たものは計り知れない。最後までやり切った自分を褒めたい。(2年)

- テーマについて一人一人が粘り強く情報収集に取り組み、情報を共有し議論を重ね、説得力のあるストーリーを練り上げることができた。しかしそのことがどのような意義があるのかという視点があつて初めて、学問や社会に貢献できる研究になるのだ、ということを学んだ。(2年)